

平成21年度科学研究費補助金実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号 7 3 9 0 1 2. 研究機関名 財団法人 日本モンキーセンター
3. 研究種目名 基盤研究(A) 4. 研究期間 平成19年度～平成22年度
5. 課題番号 1 9 2 5 5 0 0 8
6. 研究課題名 野生チンパンジーにおける文化的行動の発達と新奇行動の流行現象

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
4 0 0 1 1 6 4 7	フリガナ <small>モシダ トシタ</small> 西田 利貞		所長

8. 研究分担者(所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。)

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
3 0 3 2 2 6 4 7	フリガナ <small>ナカムラ ミチオ</small> 中村 美知夫	京都大学・野生動物研究センター	准教授
9 0 4 4 4 9 9 2	フリガナ <small>マツカ タカヒサ</small> 松阪 崇久		特別研究員
	フリガナ		
	フリガナ		
	フリガナ		

9. 研究実績の概要

下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600字～800字で、できるだけ分かりやすく記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

2009年度によく観察された新奇行動には、求愛誇示としての腰叩き、不安時の乳首押さえ、レモン採食時の口拭い、クマバチの巣に対する枝使用、などがある。「腰叩き」誇示の開始者は第1位雄のPMであるが、今季初めてこの誇示を示した9歳の雄はPMから学習した可能性が高い。「乳首押さえ」行動の開始者は現在第3位の雄である。今回、大人雄1頭、若者雄1頭、若者雌2頭で「乳首押さえ」を新たに確認した。これは新たな流行現象である可能性がある。しかし、実際に第3位の雄から学習したのかどうかは明らかではない。対角毛づくろいには、手掌と手掌を握り合うサブタイプがあり、これは昨年までは、Kグループから移籍したGWという大人雌のみで知られていた。ところが、2009年には最近GWと行動を共にするようになったXTという大人雌が、その息子と対角毛づくろいをした際、このサブタイプを示した。これは、個体から個体へ対角毛づくろいが伝播したことを示唆する証拠といえる。なぜなら、2007年にはXTは手掌型を示していず、またGWとの親しい関係も成立していなかったからである。今回初めて観察された新奇行動には、樹上でベッドを作り、その上で四足で何度も跳ぶ求愛誇示がある。若い大人雄が示し、発情雌が走り寄り、実際交尾が起こった。これは、Mグループでみられる「灌木曲げ」（クッション様のものを地上に作るだけの求愛誇示）とは明らかに異なるパターンである。この大人雄は若者期には「灌木曲げ」の求愛誇示しか示していなかった。父子関係の解明のためのDNA解析が進んでいる。チンパンジーの行動の包括的なエソグラムを作り、過年度に撮影したビデオを編集し、総数700に及ぶ映像エソグラムを完成した。3月末にテキストとDVD2枚を出版社（Springer Verlag）に引き渡した。これは、チンパンジーの行動の地域間比較を大いに刺激するだろう。

10. キーワード

- (1) 文化的行動 (2) イノベーション (3) 流行
- (4) 発達 (5) 学習 (6) エソグラム
- (7) チンパンジー (8) マハレ山塊国立公園 (裏面に続く)

11.研究発表（平成21年度の研究成果）

〔雑誌論文〕 計（4）件 うち査読付論文 計（4）件

著者名	論文標 題			
Inaba A	Power takeover occurred in M group of the Mahale Mountains, Tanzania, in 2007			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
Pan Africa News	有	16(2)	2009	13~15

著者名	論文標 題			
Nakamura M et al.	Chimpanzee tourism in relation to the viewing regulations at the Mahale Mountains National Park, Tanzania			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
Primate Conservation	有	24	2009	85~90

著者名	論文標 題			
Nakamura M	Aesthete in the forest? A female chimpanzee at Mahale collected and carried guineafowl feathers			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
Pan Africa News	有	16(2)	2009	17~19

著者名	論文標 題			
Nishida T et al.	Pirouettes: the rotational play of wild chimpanzees			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
Primates	有	50(4)	2009	333~341

〔学会発表〕 計（9）件 うち招待講演 計（1）件

発表者名	発表標 題	
藤田 志歩 他	マハレ山塊国立公園におけるエコツーリズムがチンパンジーの健康状態に及ぼす影響	
学会等名	発表年月日	発表場所
第25回日本霊長類学会大会	2009年7月20日	中部学院大学（岐阜県）

発表者名	発表標 題	
井上 英治 他	長期政権を築いたオスチンパンジーの繁殖成功	
学会等名	発表年月日	発表場所
第25回日本霊長類学会大会	2009年7月20日	中部学院大学（岐阜県）

発表者名	発表標 題	
井上 英治 他	チンパンジーにおける第一位オスの繁殖成功	
学会等名	発表年月日	発表場所
日本動物行動学会第28回大会	2009年11月27~28日	筑波大学（茨城県）

発表者名	発表標 題	
松阪 崇久	野生チンパンジーにおける移動をめぐる母子間交渉	
学会等名	発表年月日	発表場所
日本赤ちゃん学会第9回学術集会・ラウンドテーブル	2009年5月16日	滋賀県立大学（滋賀県）

発表者名	発表標題		
Nakamura M	Long-term field studies of chimpanzees at Mahale Mountains National Park, Tanzania		
学会等名	発表年月日	発表場所	
Long-Term Field Studies of Primates	2009年12月8～11日	Göttingen (Germany)	

発表者名	発表標題		
中村 美知夫	社会が複雑であるとはどういうことか？—社会と個体の関わりについての問題提起		
学会等名	発表年月日	発表場所	
第25回日本霊長類学会大会 自由集会	2009年7月18日	中部学院大学 (岐阜県)	

発表者名	発表標題		
西田 利貞 他	野生チンパンジーの映像エングラムの作成とその応用について		
学会等名	発表年月日	発表場所	
第63回日本人類学会大会	2009年10月4日	砂防会館 (東京都)	

発表者名	発表標題		
Shianda M	Social-Object-Play among wild chimpanzees in Mahale Mountains National Park		
学会等名	発表年月日	発表場所	
SAGA12 with HOPE	2009年11月14～15日	北九州大学 (福岡県)	

発表者名	発表標題		
田代 靖子 他	西部タンザニア地域のチンパンジーの遺伝的多様性		
学会等名	発表年月日	発表場所	
第25回日本霊長類学会大会	2009年7月19～20日	中部学院大学 (岐阜県)	

〔図書〕 計 (3) 件

著者名	出版社		
中村 美知夫	中央公論新社		
書名	発行年	総ページ数	
チンパンジー—ことばのない彼らが語ること	2009	239	

著者名	出版社		
中村 美知夫	昭和堂		
書名	発行年	総ページ数	
インタラクシヨンの境界と接続—サル・人・会話研究から	2010	19～26	

著者名	出版社		
Nishida T et al.	Springer Verlag		
書名	発行年	総ページ数	
Chimpanzee behavior in the wild. The audio-visual encyclopaedia.		印刷中	

12. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

〔出願〕 計 () 件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

【取得】 計（ ）件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別

13. 備考

※ 研究者又は所属研究機関が作成した研究内容又は研究成果に関するwebページがある場合は、URLを記載すること。

<http://mahale.web.infoseek.co.jp/kakenhi2/>